

私たちの活動や意見を仲間で共有します。
会費は県と日本平和委員会の活動も支えます。

土浦平和の会ニュース

2019年5月15日 第327号

発行：土浦平和の会

事務局：土浦市烏山2-530-296

HP：<http://heiwatutiura.web.fc2.com/>



安倍政権の危険なねらい

自衛隊の危険な実態を知らせ、 改憲ノーの世論を大きく！

日本平和委員会が全国的な反撃の必要性を強調

3月に開かれた日本平和委員会理事会で、弁護士の内藤功代表理事は、

▽若者を自衛隊に多数応募させるため、自治体に強制して全国の情報を集めて自衛官適齢者名簿を作り上げ、自衛官募集のダイレクトメールを送る

▽戦争法のもと、海外での米軍と一体の戦闘に青年を動員するー

というのが安倍首相の改憲の狙いだと強調しました。これに関連し、防衛大におけるいじめ問題、自衛隊への名簿提供問題などが議論され、「戦争する国づくり」を促進する圧力に対する反撃の取り組みが重要であるとしました。

参加者からは「本人の知らないうちに自治体が自衛隊に対



して若者の個人情報を提供することは人権を否定する問題だ」との声が寄せられ、自衛隊の実態を告発する運動の強化が訴えられました。

自衛官用の住民名簿、提供続々 首相発言後、首長指示か 身内からも批判

自衛官募集のため市区町村が国に伝える住民の個人情報をめぐり、名簿の「閲覧」の許可から「提供」に変更する動きが相次いでいる。「自治体の6割以上が協力拒否」という安倍晋三首相の発言を受け、首長らが見直しを指示しているとみられる。だが、個人情報の専門家は「閲覧と提供は全く違う概念だ」と懸念を示している。(朝日新聞DIGITALより)

自民党が所属国会議員に、選挙区内にある自治体の自衛官募集に対する協力状況を確認するよう文書で求めた。市町村の9割近くが何らかの協力をしているにもかかわらず、「協力」の解釈を狭めて「6割以上が拒否」と強調。憲法改正を訴える安倍晋三首相を援護射撃する狙いだが、自治体への「圧力」批判が党内からも上がっている。(朝日新聞DIGITALより)



6 / 9 土浦平和の会第26回総会記念

講演 米朝首脳会談後の行方と東アジアの平和共同体 南米ベネズエラで何が起きているのか 日本AALA顧問 小松崎榮氏が語る

6月9日午後、土浦平和の会は第26回総会を開催します。総会に先立ち、日本AALA顧問の小松崎榮氏が記念講演を行います。参加費は無料で会員以外の方の参加大歓迎です。

6月9日(日)13:30～

ワークヒル土浦

第1部 記念講演：小松崎榮氏
第2部 土浦平和の会第26回総会

参加費無料
会員以外の方の参加大歓迎

2月ハノイでの朝鮮半島の非核化と和平に関する第2回米朝首脳会談は合意には至りませんでした。今後も話し合いを継続することで望みをつなぎました。東アジアの平和と安定は可能か、その展望を切り開くには…

南米ベネズエラの政治不安が国際問題になっています。ベネズエラでの体験を交え、混迷するベネズエラ事情を解説。



小松崎榮氏略歴

1937年茨城県石岡生まれ。小学校3年まで土浦市真鍋小学校。東京学芸大卒。都内で中学校数学の教師。1994年から東京労連事務局長、全労連副議長、革新都政をつくる会代表世話人、東京都革新懇代表世話人などを歴任。2011-2017年日本AALA代表理事。2014年ASEAN訪問団団長としてインドネシア、ミャンマーを訪問。2016年ベネズエラで開かれた非同盟首脳会議に日本AALA代表としてオブザーバー参加など中南米やアフリカ諸国を訪問。海外事情に精通。

5・3憲法記念日/水戸 憲法フェスティバル

「いかそう憲法のカ・憲法はウソも戦争も許さない」の思いを込め、1,200人が参加しました。水戸工業高校ジャズバンド、水戸藩YOSAKOI連が競演。映画「ザ・思いやり」など制作したりラン・バクレー監督が記念講演しました。

この日は東京集会に6万5千人が結集するなど全国一斉に様々な行動が展開されました。



水戸藩YOSAKOI連

いばらき原発県民投票の会

土浦・県民投票カフェ開かれる

5月12日午後、いばらき原発県民投票の会が主催する「土浦県民投票カフェ」が開催され30名余が参加しました。

テーマは「県民投票って?」「受任者って何するの?」「東海第2原発ってどうなってるの?」など、参加者全員でざくばらんに話し合いました。



東海第2は首都圏唯一の原発で、半径30km圏内に全国最多の94万人が暮らしています。老朽原発をさらに20年も稼働延長するという無謀な計画の方向を住民の声を聞くことなしに決めてしまうことは許されません。まずは「県民投票条例」の制定を求める署名集めから運動が開始されます。会は県内全44市町村での開催をめざしています。

今後、県平和委員会とも歩調を合わせ取り組んでいきます。

泥憲和(どろのりかず)という名をご存じでしょうか。2017年の憲法記念日に亡くなられた元自衛官の市民運動家泥憲和さん(享年64歳)が残した数々の言葉は胸に迫ります。

国会前で安保法案に反対する集会で泥さんは、豪雨による鬼怒川などの決壊で災害救援にあたった自衛隊員の活躍を讃えた上で、「遠い外国で人殺しするために自衛隊に入った人なんていない」と訴え続けました。ほんのさわりだけ紹介します。

神戸・三宮の街宣活動に飛び入りで、元自衛官(防空ミサイル部隊所属) 泥 憲和さん

胸に迫る泥憲和さんの言葉

集団的自衛権の真実を告発し続けた元自衛官

大滝 誠(土浦平和の会理事)

みなさん、集団的自衛権は他人の喧嘩を買いに行くことです。他人の喧嘩を買いに行ったら、逆恨みされますよね。当然ですよ。だから、アメリカと一緒に戦争した国は、かたっぱしからテロに遭ってるじゃないですか。イギリスも、スペインも、ドイツも、フランスも、みんなテロ事件が起きて市民が何人も殺害されてるじゃないですか。

みなさん、軍隊はテロを防げないんです。世界最強の米軍が、テロを防げないんですよ。自衛隊が海外の戦争に参加して、日本がテロに狙われたらどうします

か。みゆき通りで爆弾テロがおきたらどうします。自衛隊はテロから市民を守れないんです。テロの被害を受けて、その時になって、自衛隊が戦争に行ってるからだ逆恨みされたんではたまりませんよ。だから私は集団的自衛権には絶対に反対なんです。

みなさん、自衛隊はね、強力な武器を持ってて、それを使う訓練を毎日やっています。一発撃ったら人がこなごなになって吹き飛んでしまう、そういうものすごい武器を持った組織なんです。だから、自衛隊は慎重に慎重を期して使って欲しいんです。私は自衛隊で、「兵は凶器である」と

習いました。使い方を間違ったら、取り返しがつきません。ろくすっぽ議論もしないで、しても嘘とごまかしで、国会を乗り切ることはできるでしょう。でもね、戦場は国会とは違うんです。命のやり取りをする場所なんです。そのことを、どうか真剣に、真剣に考えてください。

泥憲和さんの発言は「戦争法はすでに通ってしまったから」と決してあきらめてはならないことを教えてください。



【平和の会へのおさそいを。「平和新聞」購読も広げましょう】

- 幅広い年代からの加入を勧めましょう。ご家族・ご近所・友人・知人などにお声かけを
- 「平和新聞」(毎月5、15、25日発行) 月額400円